

令和 7 年深谷市教育委員会第 7 回定例会会議録

深谷市教育委員会

令和 7 年深谷市教育委員会第 7 回定例会

日	時	令和 7 年 7 月 9 日（水）			
	開 会	午後 3 時 0 0 分			
	閉 会	午後 4 時 0 0 分			
場	所	本庁舎 3 階 会議室 3－1			
出席委員	教 育 長	片 桐 雅 之			
	教育長職務代理者	荒 井 泉			
	委 員	久保田 みずき			
	委 員	寺 山 智 久			
	委 員	栗 原 孝 子			
出席職員	教 育 部 長	松 村 一			
	教育部次長兼教育総務課長	塚 原 陽 一			
	教育部次長兼教育施設課長	中 島 武 彦			
	教育部次長兼学校教育課長兼 指導主事兼教育研究所長	染 谷 明 信			
	教育部次長兼生涯学習 スポーツ振興課長	花 岡 慎			
	文化振興課長	知 久 裕 昭			
	図 書 館 長	澁 澤 武 雄			
	教育総務課課長補佐	福 島 崇			

- 1 開会
教育長が開会を宣告
- 2 開議
教育長が開議を宣告
- 3 前回議事録の承認
第6回定例会の会議録を全員異議なく承認
- 4 会議録署名委員の指名
教育長が寺山委員を指名
- 5 報告
 - 報告1 令和7年深谷市議会第2回定例会について
教育部長より説明。質疑応答後、全員異議なく承認
 - 報告2 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について
教育部次長兼教育総務課長より説明。全員異議なく承認
 - 報告3 標準学力検査N R T等の調査結果について
教育部次長兼学校教育課長兼指導主事兼教育研究所長より説明。質疑応答後、全員異議なく承認。
 - 報告4 令和6年度数検の結果について
教育部次長兼学校教育課長兼指導主事兼教育研究所長より説明。質疑応答後、全員異議なく承認。
 - 報告5 ヤングケアラーアンケート調査の実施について
教育部次長兼学校教育課長兼指導主事兼教育研究所長より説明。質疑応答後、全員異議なく承認。
 - 報告6 令和7年6月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】
- 6 閉会
教育長が閉会を宣告

議事等の概要

報告 1 令和 7 年深谷市議会第 2 回定例会について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教 育 部 長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

久保田委員 まなびポケットの活用に関する答弁に関しては、導入時に学校から配布されたまなびポケットの資料にて、児童用のまなびポケットは家庭の W i - F i でのみ接続するとあり、児童は原則自宅での使用に限定されていますが、学童保育室ではまなびポケットに接続できるのか教えてください。

また、システムの不具合によりまなびポケットが使用できない場合に、学童で開けず「暗記するしかない」との児童の声を聞きます。こうした検証すべき課題への対応について教えてください。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

まなびポケットに接続できない学童保育室も存在します。その場合は接続できる学校内でまなびポケットの画面をスクリーンショットとして保存することで、学童保育室でも内容を確認できるように対応している学校もあります。こうした対応を各学校に周知していきたいと考えております。

また、検証すべき課題につきましては、現在 G I G A スクール推進委員会を立ち上げているため、より良い方法を協議してまいります。

報告 2 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教育部次長兼教育総務課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

(質疑なし)

報告 3 標準学力検査 N R T 等の調査結果について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長 (概要を説明)

教 育 長

久保田委員 本報告について、質疑はありませんか。

小学 2 年生から 5 年生の N R T の低位層の分析にて、「ふっかちゃん夕焼け計算道場」の学習プリントや「ドリルパーク」を活用することで、早い段階から補足的な学習に取り組む必要があるとのことですが、学童保育室に入室していない児童が帰宅し、宿題を終えた後に「ふっかちゃん夕焼け計算道場」の学習プリントや「ドリルパーク」の指定範囲を計画的に取り組むのは、親と一緒に確認しないと難しいほどの問題量があると実感しています。

また、学童保育室の児童が 19 時以降は i P a d を使わないというルールを守ると、帰宅後にドリルパークに取り組む時間の確保が難しいと感じます。そのため、「ふっかちゃん夕焼け

計算道場」と「ドリルパーク」いずれかを選択して学習ができれば良いと感じています。

さらに、宿題は教員が児童の進行管理を行いますが、「ふっかちゃん夕焼け計算道場」や「ドリルパーク」は、児童が自分で進度を決めて学習する必要があるため、教員から進度の目安について声掛けがあると児童は進めやすいと思います。事務局の見解を教えてください。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

宿題に関しては、原則計算ドリルをメインに出しており、進行管理は各小学校で行っています。「ドリルパーク」に関しては、計算ドリルを終えた児童が、さらなる学習を進めるために取り組むものですが、学校により取組方法に差異があるのが現状です。そのため、各学校により良い活用方法を周知していきたいと考えております。

また、学童保育室に入室しているかどうかによって、差がでてしまう問題もありますので、学童保育室主管課と連携しながら進めて行きたいと考えておりますが、一歩越えなければいけないハードルもあります。

現状では、基本的には学校の計算ドリルをしっかり行い、その発展として「ドリルパーク」があると捉えています。

栗原委員

議案書19ページで5段階評価としている「記憶力、言語力、図的能力、処理速度、思考力」について、具体的に何を指しているのか教えてください。

また、小学校3年生から6年生までの領域内容の人数とパーセントについても、詳細を教えてください。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

議案書19ページで5段階評価としている「記憶力、言語力、図的能力、処理速度、思考力」については、中学校1年生のNINOの結果であり、標準を50としたときの深谷市の生徒の偏差値となります。領域内容に関しては、中学1年生が小学6年までの学習内容のうち、どの内容でつまづいているかを把握できる項目となります。この結果を見ると、中学1年生の25%が小学校5年生の分数の加法減法でつまづいていることが判明しました。

これを受けて、今年度からNRTの中学1年生の結果に基づき、下位3校には学習のための支援員を増やし、評定1及び2のつまづいてる生徒たちを対象に「ステップアップレッスン+」を実施し、小学校の学習の学び直しを行う予定となります。

栗原委員

上位層の評定を向上させることが一つの課題ですが、この取組を引き続き実施していくにあたり対応策があれば教えてください。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

特に算数の評定は、評定4の割合が多いですが、学年が上がるにつれてその割合が減少する傾向があります。授業担当教員は評定4を得ている児童に対して、授業の中での理解度が高いことを踏まえた指導方法について、少し不安がある可能性があ

ります。

小学校の算数の授業については、低学年のうちから問題文の「わかっていること」、「聞いていること」に線を引くことを授業で行うことで、低位層の児童でも理解がしやすくなります。

しかし、この取組を小学6年生になっても続けると、低位層の児童の学力は向上する一方で、上位層の児童の学力が伸び悩んでいるのではないかという分析を行いました。これまでの授業スタンダードの見直しを行い、学年が上がるにつれて問題の提示の仕方を工夫することなどを園長・校長会で共有しました。

また、夏に行われる研修会等において、この結果を踏まえ、授業を少しずつ見直していくという視点で研修を実施しました。

教 育 長

深谷市は、これまで全国学力学習状況調査や埼玉県学力学習状況調査を実施してきましたが、全国や県の平均を下回ることが多く、国基準から考えると低い位置にいました。今年度、学力向上のために学力検証テストGKTの取組を始め、全国学力学習状況調査の前にこれまでの問題を多く解くことで対策を行ってきました。しかし、今年の結果はまだ出ていませんが、急に成績が上がることはないと考えており、厳しい状況になるのではないかと考えております。

また、深谷市の児童生徒がどの程度の段階で実際に全国や県の平均を下回っているのか確認するため、小学校2年生からNRTテストを実施することにしました。一つの物差しとして行った結果、2年生、3年生、4年生及び5年生の成績が全国平均を下回っていることが見えてきました。

このことから、小学2年生でのつまづきがどのように始まるのかを考えると、幼児期や小学1年生の段階からすでに問題がある可能性が高いという考察に至りました。したがって、幼児教育及び保育教育との連携を考え、家庭教育を含めた幼児段階の学習についても見直しを行う必要があると考えています。

学力向上は学校にとっての重要な課題です。もちろんテストができることだけではでなく、生きるための知恵をつけることが重要です。予想したよりも前の段階から課題が存在することが判明したため、取組について検討していきたいと考えております。

報告4 令和6年度数検の結果について

教 育 長

事務局より説明を求めます。

教育部次長兼学校教育課長兼

(概要を説明)

指導主事兼教育研究所長

教 育 長

本報告について、質疑はありませんか。

教 育 長

令和5年度と比較すると、令和6年度の数学検定4級以上相当者が飛躍的に向上していますが、この要因は令和6年1月に

実施した学力検証テストG K Tの効果によるものなのか教えてください。

また、市立中学校10校のうち、南中学校、上柴中学校、川本中学校の数学検定4級以上相当者の割合が約7割ですが、これらの学校は取組が特に良かったと考えてよいのか教えてください。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

学力検証テストG K Tを実施する時期と数学検定を受ける時期が重なったことで、生徒及び学校の意識が変わり、飛躍的な向上を見せたと考えております。特に向上している上柴中学校は、ある程度学力がある生徒がいた可能性もありますが、学力検証テストG K Tを実施することにより、生徒が少しずつ力を発揮できたことが要因であると考えております。今後、この結果を学力検証テストG K Tの取組に繋げて行きたいと考えております。

報告5 ヤングケアラーアンケート調査の実施について

教 育 長
教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

事務局より説明を求めます。
(概要を説明)

教 育 長
久保田委員

本報告について、質疑はありませんか。

令和6年度のヤングケアラーアンケート調査において、家族の面倒を見ていると答えた児童生徒に個別対応した際に、家事手伝いレベルも含まれており、最終的にヤングケアラーに当てはまらないという結果が多くありました。

また、実態に関する調査研究では、児童生徒のヤングケアラーに関する認知度が約34%程度でした。このため、ヤングケアラーアンケートを実施する前に、児童生徒にヤングケアラーの定義や関連情報について説明を行ったうえで実施することで、結果に違いが出るのではないかと考えます。南中学校にて実施した、元ヤングケアラーなどを招き、ヤングケアラーについて学ぶ出前教室「ヤングケアラーサポートクラス」のように、児童生徒への説明の機会があるのか教えてください。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

ヤングケアラーアンケート調査は、令和3年度から実施をしており、年代を重ねるごとに、児童生徒及び教員にヤングケアラーに対する意識が根付いていると考えております。ヤングケアラーアンケート調査を実施する前に、クラス担当教員からヤングケアラーについての説明を行うよう、各学校に周知しております。

寺 山 委 員

ヤングケアラー調査は既に実施しているとのことですが、次回の定例会でヤングケアラーアンケートの調査項目が、前年度と比較してどのように変更されているのか等の調査内容に関する報告はあるのか教えてください。

教育部次長兼学校教育課長兼
指導主事兼教育研究所長

ヤングケアラーアンケート調査については、現在集計を行っているため、次回の定例会にて第1段階の結果を報告いたします。

その際に、ヤングケアラーアンケートの調査項目が前年度と比較してどのように変更したのか分かるような形で報告いたします。

教 育 長 今後、このような実態調査を教育委員会に報告する際には、調査内容についても報告資料に含めるようにしてください。

報告 6 令和 7 年 6 月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】

次回令和 7 年第 8 回定例会は、8 月 6 日（水）午後 3 時 0 0 分から開会です。

以上で、令和 7 年深谷市教育委員会第 7 回定例会を閉会します。